

交通災害共済事業廃止に伴う Q & A 集

	問	答
1	なぜ廃止するのか	<p>・年々、加入者が減少しており、今後、安定的に事業を継続できる見込みがないためです。（単年度収支については、赤字）</p>
2	加入者減の原因は何か	<p>・事業開始当初に比べ、今やほとんどのドライバーが任意保険に加入しており、交通事故によるケガの補償を受けることができるためです。</p> <p>また、補償内容が充実した民間の保険が普及しており、各個人が自分にあった補償を自由に選択できるようになったこと等から本共済に対する関心度の低下により加入者が減少しております。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>昭和 44 年設立 平成 7 年度の加入率 56.5%をピークに、減少傾向が続いている。 ※令和 5 年度 17%（令和 6 年度 16.1%R6. 6. 30 現在）</p> </div>
3	経営努力はしてきたのか	<p>・加入率を上げるため、市町村広報紙、テレビコマーシャル、新聞折込など PR 事業（周知）を行ってきました。</p> <p>・また、令和 3 年度には、支払件数の多い等級の見舞金及び最下級の見舞金の額を 1 万円から 2 万円に引き上げ、加入推進を行いました。</p>
4	この共済の代わりとなる保険はあるのか	<p>・本共済と同じような交通災害保険や自動車の任意保険に付帯している人身傷害保険など多くの保険があるものと想定しています。</p> <p>・詳しくは、インターネット等により、ご確認ください。</p>
5	他の保険会社の商品では高額となってしまうのではないのか	<p>・本共済と同じような交通災害保険、任意自動車保険に自動的に付帯されている人身傷害保険や人身傷害保険のオプション加入により本共済と同じ補償内容を受けられることを確認しています。</p> <p>・なお、保険の中には、あらゆるケガをカバーする保険や個人賠償保険とセットになっている商品などがありますので、ご自身にあった保険をお選びください。</p>
6	令和 7 年度に加入した場合は、いつまで補償されるのか	<p>・令和 7 年度に加入された方の共済期間は、令和 8 年 3 月 31 日までであり、その間に受けた交通災害が補償されます。</p>

7	令和7年度中に中途加入はできるのか	・加入できません。なお、共済期間の終期は、令和8年3月31日までであり、その間に受けた交通災害が補償されます。
8	見舞金の請求はいつまでできるのか	・交通災害が発生した日の翌日から起算して2年以内です。 (市役所・役場が休みの場合は、休みの前の日まで) ・上記期間を経過した場合は、請求できません。
9	基金はどのくらいあるのか	・欄外「基金状況」参照
10	基金は今後どうするのか	・事業年度終了(令和9年度末)後に加入数の割合に応じて参加市町村へ配分します。 ・本共済の目的を考え、交通安全対策事業等、交通事故防止活動に使われます。
11	基金をなぜ住民に返金しないのか	・一人ひとりの加入していた年数や納めた掛金を確認することが不可能なため、各市町村へ配分することにしました。
12	廃止することをもっと早く周知すべきだったのではないのか	・廃止にあたっては、組合を構成する市町村の協議(各市町村の議会の議決)が必要であり、協議が整ったところでの周知となりました。
13	この共済が廃止されることを知らなかったが	・令和7年度の募集のチラシ及び市町村の広報紙に記載してあります。
14	この事業では見舞金以外に何を支払っているのか	・印刷費(加入申込書・チラシ・ポスター)、広告料(新聞折込料)、市町村への事務経費、人件費を支出しています。
15	見舞金のみ支給することでやっていけないのではないのか	・(14に記載の)費用が必要となるため、いずれ運営ができなくなると認識しています。
16	基金を取り崩していけば運営していくことができるのではないのか	・ここ数年、基金から繰り入れて運営しているため、いずれは運営できなくなると想定され、早い段階に廃止することにしました。
17	掛金を引き上げればいいのか	・500円という低額の掛金で補償が受けられるというのがPRの保険でした。加入率が下がっている状況で、掛金を上げた場合、もっと加入者が減少してしまうものと想定しています。

18	生活弱者を切り捨てることになるのではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・本共済は、住民が任意で加入できる事業として実施していません。 ・現在、民間の保険においては、交通事故によるケガに対する補償が得られる商品が数多くあり、十分な補償が受けられる状況ですので、様々な保険の中から自分に合った形で必要な保険に加入していくことが可能です。
----	-----------------------	--

加入状況

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度 (R6.6月末)
加入者(人)	100,536	95,337	93,257	85,613	78,932	74,527
掛金(千円)	50,268	47,668.5	46,628.5	42,806.5	39,466	37,263.5
加入率(%)	21.2	20.3	19.9	18.4	17	16.1

見舞金支給状況

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度 (R7.1月末)
件数(件)	678	548	502	543	490	381
見舞金(千円)	32,565	32,375	22,450	26,715	25,550	22,530

基金状況

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
残高(円)	302,033,407	308,180,407	312,456,850	315,305,040	310,301,727